

学びあうための

## 第22回関東アコーディオン演奏交流会（コンクール）

2010年9月26日（日）北区滝野川会館

「重奏・小アンサンブル・合奏の部」結果発表

### 入賞・入選団体

#### 重奏の部（出場25団体84名）

一位 ニュー・アンサンブル・アコルデ ユーモレスク～冬  
稲葉由理子 園山三左子 齋藤みどり 秋澤加寿子 足立カヨ子  
作曲：ヤン・トゥルーラー

二位 I l m a GANKINO HORO  
伊藤千尋 高橋絢子  
作曲：ブルガリア民謡 編曲：Lars Holm

三位 アミーゴ 弦楽四重奏曲「アメリカ」より第3楽章  
大渕 恵 橋本千香子 中川ゆり子 池田 健  
作曲：ドヴォルザーク

#### 入選

- nero e bianco 哀愁のミュゼット  
若松 紀 萩本善久  
作曲：桑山哲也
- 土曜の女子会 The Easy Winners  
大渕 恵 金子昌世 川原暁子  
作曲：スコット・ジョプリン
- アコーディオン・カルパッチョ東部 トリッチ・トラッチ・ポルカ  
金野直子 太田裕美子 佐藤八重 除村 裕 家子哲雄 石川 衛  
作曲：J・シュトラウス 編曲：木下そんき
- チーム新宿 CHARLIE THE BOXER  
太田裕美子 金野直子  
作曲：STANLEY KARANKOWSKI
- 金曜の風 縦の木  
野本淑子 菱田陽子 新井幸子  
作曲：シベリウス 編曲：中山英雄

#### 奨励賞

- たまことシスターズ 森へ行きましょう  
佐藤タマミ 佐藤ことみ  
作曲：ポーランド民謡 編曲：Xi-An Yu

## 小アンサンブルの部 (出場4団体14名)

- 一位、二位 なし

三位 アミーゴ タンガリア

作曲：リチャール・ガリアーノ 編曲：橋本千香子

### 奨励賞

- **a c c o m o n i c a** Corazon de Oro

作曲：Francisco Canaro 編曲：関田更如

## 合奏の部 (出場16団体137名)

一位 ウィンドバスカース 埼玉アコーディオングループ 荒城の月(ジャズフィーリング)

作曲：滝廉太郎 編曲：松永勇次

二位 東京労音アコーディオン研究会 薔薇色のメヌエット

作曲：ポール・モーリア 編曲：浜名政昭

三位 音楽センター南部教室 荒城の月

作曲：滝廉太郎 編曲：松永勇次

### 入選

ウィンドバスカース川口 サンバメドレー

作曲：アリー・バローゾ 編曲：松永勇次

音楽センター中部金曜教室 白樺

作曲：ロシア民謡 編曲：中山英雄

音楽センター東部教室 TONIGHT 「ウェストサイド・ストーリー」より

作曲：バーンスタイン 編曲：木下そんき

三多摩アコーディオンクラブ ラ・ビオレテラ(「街の灯」より)

作曲：Charlie Chaplin 編曲：川口裕志

### 努力賞

- 横浜アコーディオン愛好会 別れのブルース

作曲：服部良一 編曲：石居庸介

=学びあうためのコンクール=

第22回関東アコーディオン演奏交流会審査員会からの講評

### 《学ぶということ》

第22回関東アコーディオン演奏交流会、重奏・アンサンブル・合奏の部が2010年9月26日(日)北区滝野川会館に於いて行われた。いつもの様に審査要項を確認して、審査・採点方法を決め、審査員長を決めて慌しく審査にはいった。(裏面に続く)

審査は下記の我々9名に桑山哲也氏を加えて、今年も新たな発見に満ちていた。参加の皆様、運営に関わった皆様に大きな拍手をおくりたい。

重奏の部は25団体が出場。ニュー・アンサンブル・アコルデは細部にわたって良く聴き合う事が出来ていた。11 ma のデュオは曲のリズムをよく表現し、アミーゴは曲を全員が良く捉えていた。入選団体は、音量・音色のバランスが良く配慮されて、編曲の意図をよく生かしていた様に感じられた。唯一のジュニア参加「たまことシスターズ」は息のあった楽しい演奏であった。

小アンサンブルは4団体。アミーゴのタンガリアは意欲的な編曲を良くこなし、メリハリのある迫力のある演奏であった。

この部門、残念ながら時間超過があり、一位、二位はなしとなった。これらは今後の教訓としたい。C メロ譜のみの提出譜面は、アドリブを中心とするこの分野でどうすべきか、という論議がされた。

ハーモニカとのデュオ、accomonica は楽しくのびのびと演奏し参加者を励ました。

合奏の部は16団体の出場。入賞の三団体は各パートの役割が明確で、かつよく聞き合う事が出来ていた様に思う。入選の各団体も編曲の意図をよく理解して、バランスのとれた演奏が出来ていた。

今後の課題としては、タイミング、ハーモニーバランス、リズムバランス、ダイナミズムなどを更に深めていければ、魅力的な演奏になるだろう。

学び合いと交流を目的としたこの交流会、始めた頃と比較すると、選曲も、編曲も演奏も格段に良くなっていると思う。特に音の作り方が良くなっていると感じている。思いを音に込め、ジャバラを生かしたアコーディオンらしい音作りを意識してきたからだと思う。こういった意味での学び合いは成果と言えるだろう。

反面、全体的に参加の広がりはどうだろうか？子供の参加が少ない、同じメンバーが何回も出る、聴衆が少ない、表彰式に受賞者がいない、などなど気になる事があった。音楽的にも、歌や他楽器との接点、表現の多様性などはこれからの課題でもある。私自身も何を学んできたか問はれている様だ。

(担当 松永勇次)

《審査員》

特別審査員 桑山哲也

審査員 青山義久(合奏) 川口裕志

木下そんき 眞錫安

柴崎和圭(アンサンブル) 中山英雄

西尾正 松永勇次

山岡秀明(重奏)

( )は審査委員長